

いまこそ、命・くらし・商売守る大阪市政を！

大阪市会議員

てらど月美



日本共産党

皆さんの声をお聞きし、議会や行政に届けて要望の実現を進めています。

福祉職場の労働条件改善を

市の責任で コミュニティバスの運行を

赤バス・福祉バスが次々と廃止され、市民の生活に必要な交通手段が奪われてきました。とりわけ十三市民病院に通院される多くの方々から「何としてもコミュニティバスの運行を」と深刻な声が寄せられていました。「区民の足を守る会」の方々と共に市民病院に巡回バスの運行を要望し続けました。



現在、市民病院が自前で4ルートを送迎バスを運行されていて、大変喜ばれています。

しかし、市民病院まかせにせず、大阪市の責任で、買い物など自由に利用できるコミュニティバスを運行するべきではないでしょうか。地域になくてはならないコミュニティバスの運行を求めて参ります。

十三ロータリーから尼崎に向けて走る道路（十三筋）の雨水ますに「草木が生え、泥が溜まって悪臭がするので、何とかしてほしい」と加島地域の方から要望され、現場の調査を行いました。

道路の『雨水ます』 清掃、点検が実現

臭いもひどい、台風やゲリラ豪雨などで大雨が降れば周りが浸水する恐れがあると、十三工営所に対策を求めました。



要望箇所の清掃はさっそく取り掛かりましたが、大阪市内や淀川区内の各雨水ますの点検や、清掃作業には人手が足りないのが現状です。安心・安全のまちづくりのためには、職員を増やすことも必要です。

てらど月美市議は2月14日、大阪市民生保健委員会で、職員不足の大きな問題を抱えている障害児（者）施設などの職員確保と処遇改善を求め質疑しました。



2月14日質疑に立つ、てらど月美市議

てらど市議は、障害児の入所施設で、強度障害や虐待を受けて保護された児童など、きめ細かな対応が必要な児童の入所が増え、職員の負担が大きくなっていると指摘。独自に8人雇用している福祉職場では、国の配置基準（17人）を上回る25人体制で運営していても、「（職員が）休憩や休暇は取れていない」などの実態を紹介。

新たに創設された一部の福祉・介護職員等への特定加算は、限定的な処遇改善でしかなく、劣悪な職場環境・労働条件の現状を改善しないと、心身ともに疲弊して退職する悪循環を解決できないと指摘。「大阪市の福祉水準の維持・向上を図るために、地方自治体の責任・役割をしっかりと果たすべきだ」と実効ある対策を講じるよう求めました。

他にもこの間議会では、こんな問題を取り上げました

高すぎる国民健康保険料の引き下げを求めた質疑

西中島巨大納骨堂建設反対を求めた陳情の採択を求めた質疑

介護保険認定調査員の確保と、認定調査遅延の改善を求めた質疑

大型民泊施設について地域住民の陳情の採択を求めた質疑

住吉市民病院跡の新病院に小児・産科病床の確保を求めた質疑

新型コロナウイルスが疑われる場合は、下記に電話で相談してください

大阪市保健所（24時間） 電話 06-6647-0641 ファクス 06-6647-1029
淀川区保健福祉センター 電話 06-6308-9882 平日9:00～17:30 土日祝は休み

SNS やメールなどでもみなさんの声をお寄せください！

大阪市会議員 てらど月美事務所
大阪市淀川区木川西2-20-4
06-6306-1155

2020年3月

